

連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2018.7

vol. 147

## 第16回 脳卒中市民講座

去る6月10日(日)に、鹿児島県医師会館において「学んで実践!!脳卒中と寝たきり予防」と題した脳卒中市民講座を開催いたしました。例年この時期に、脳卒中の発症予防や死亡率低下、後遺症軽減などにつながることを期待して開催しております本会も16回目を迎えることが出来ました。本年も(公社)日本脳卒中協会、鹿児島県、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、田辺三菱製薬株式会社、第一三共株式会社の共催で行い、他にも多くの機関にご後援、ご支援を頂きました。

はじめに開場から講演会までの時間を利用し、当院スタッフ(薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフ)による脳卒中相談コーナーを会場の一部に設置し、市民の方の相談を直接受けさせていただきました。

講演会では田中康博院長の開会挨拶に続いて、第一部は「脳卒中の予防と対策」と題し、脳梗塞は予防出来るのか?適切な予防法は?などについて脇田政之(脳血管内科医長)が、脳出血とくも膜下出血の予防法や検査などについて谷口歩(脳神経外科医長)が講演を行いました。このセッションでは、症例の実例を示しつつ講演したことにより、参加者の方々にはより実感を持って学んで頂きました。続いて第二部では、「寝たきりにならないために」と題して、上別府恵子(認知症看護認定看護師)が認知症予防のための知識や対処法について、木村英志(リハビリテーション科理学療法士長)が寝たきり予防としての家庭で出来る運動療法について、花田道代(栄養管理室長)が低栄養状態にならないための食事方法について、さらに吉留由希乃(医療ソーシャルワーカー)が地域で生活をするための知識、社会システムなどについて講演を行いました。特に認知症や運動の講演においては、実際に身体を動かして頂きながら、寝たきり予防について学んで頂きました。参加された方々は特に認知症や寝たきり予防には大変関心が高く、いずれの講演も非常に熱心に興味深く聴講されていました。最後は木佐貴涼子看護部長が閉会の挨拶で締めくくりました。

本年も幅広い年齢層の250名ほどの方に参加して頂きました。事後のアンケートでは、「とてもよかった」「勉強になった」とのお声を多く頂きました。ただ本年は例年とは異なる会場で開催したため参加人数を制限する必要があり、事前申し込み制に変更したため、多くの申し込みを頂いていたにも関わらず半数ほどの方には参加をお断りせざるを得なかったため、今後の対策は必要と思われました。今後も改善を重ねつつ引き続き開催していく予定ですので、何卒よろしくお願い致します。

最後に、本年も無事に開催することが出来ましたのは、院内各部署および共催、後援各所や開催にご理解頂きました連携先ご施設のご協力の賜とっております。末筆ながらこの場をお借りして皆様に厚く御礼申し上げます。

(文責：脳卒中センター長・脳血管内科医長 松岡 秀樹)



# 第6回 国立病院機構 鹿児島医療センター 地域医療連携懇談会を開催して

平成30年5月30日、鹿児島医療センター地域医療支援病院運営委員会および地域医療連携懇談会を、城山観光ホテルにて開催しました。

通信病院との合併が合意に至り、平成30年4月より370床から410床になりましたが、工事のため7階病棟が使用できず患者受入れ等では、ご迷惑をおかけしました。鹿児島医療圏における多くの先生方からの多大なご指導とご支援をもって、当院が地域医療支援病院として順調な歩みを続けていますことを、厚く御礼申し上げます。地域医療支援病院としての役割をより一層向上できるように邁進してまいります。



## 第17回 鹿児島医療センター地域医療支援病院運営委員会

懇談会の前に地域医療支援病院運営委員会（院外6名と院内6名の委員、事務およびメディカルサポートセンターから8名、計20名）を開催しました。委員の皆様方から当院の運営および将来像についてご質問やご意見を頂き、今後の運営に有意義な委員会となりました。



婦人科  
鮫島 浩継

6月から婦人科に赴任しました鮫島浩継といいます。H27年に鹿児島大学を卒業し昨年度より鹿児島大学の産婦人科に所属しております。こちらに赴任する前は県立大島病院で産科を中心に従事しておりました。産科の経験はこちらで生かすことはほぼありませんが、心機一転、婦人科での診療を頑張っております。趣味は釣りです。ルアー全般で、錦江湾内が主です。島でもやっていたので（主に研修医の頃ですが）奄美の釣りなど興味のある方は是非聞いてください。他科の先生方を始め、コメディカルスタッフの方々にも、助けて頂きながらの診療となりますのでよろしくお願い申し上げます。

**新任紹介**

## 第6回 地域医療連携懇談会

田中康博院長の開会挨拶で始まり、通信病院との合併の経緯や今後の当院の歩むべき方向性について所信表明されました。

今年度より外来診療を開設した肝臓内科と腎臓内科による講演会は、

- ①C型慢性肝炎の最新治療「ウイルス根絶を目指して」(櫻井 一宏消化器内科部長):C型慢性肝炎はDAA製剤の登場により、根絶への道筋が示されることとなったとのお話でした。
- ②医療センター腎臓内科紹介～包括的腎疾患診療を目指して～(古庄 正英腎臓内科科長):腎生検、治療すべき腎炎の治療、腎症進展抑制、腎代替療法を選択、透析をしない選択等の機会を提供する診療科を目指すとのことでした。

## 意見交換会

野村秀洋先生に乾杯の挨拶をして頂いた後、意見交換会に入りました。

懇談会には、医師に加え、看護部、医療ソーシャルワーカー、地域連携室、薬剤部、検査科、放射線科および事務部等、地域医療を支えている多職種のスタッフ、総数301名に出席して頂きました。この会を通じて、各施設での交流を深め、当懇談会が顔の見える連携の場になったと思います。

意見交換会の途中、当院の研修医を紹介させて頂き、最後は、中島均副院長の挨拶で閉会しました。

当院は、今後も、病院訪問や講演会等を行い、地域の医療施設との連携を深めたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくご指導お願いいたします。

(文責:メディカルサポートセンター長 園田 正浩)



## 眼科外来診療について

これまで院内患者さんの診療を主に行ってききましたが、7月より一般外来につきましても診療を開始いたします(現時点では外来診療のみ)。患者さんの紹介の際には、お手数ですが必ず紹介状を持参させて頂きますようよろしくお願いいたします。

# 平成30年 新人職員宿泊研修

平成30年6月15日（金）の朝から16日（土）午前中にかけて、4月に採用された新人職員のための宿泊研修が開催されました。新人諸君が、現場に少し慣れたこの時期に毎年恒例で行われる研修となっており、梅雨時期のため天候が心配されたのですが、今年は快晴のなか開催することが出来ました。場所は、鹿児島県の北に位置するいちき串木野市の「ホテルアクシアくしきの」を使用しました。景観良く静かで、漁港が近くにあるため海の幸を使った料理が美味しい所です。研修は、今年の新人職員の内、ほぼ全員の研修医を含む多職種53名が出席し、又、幹部及びファシリテーターを含む17名の職員が脇を固め合計70名で行われました。初日の午前中、班分けされた新人諸君は、早速、多少緊張気味に自己紹介をした後、「新人同士が集まり、日頃感じていることを語ろう」をテーマにグループワークを行いました。午後からは、生産性UP人材育成トレーナーである佐藤靖子先生を講師として招き、アサーショントレーニングを中心にした特別講演が行われました。コミュニケーションツールとして自分も相手も大事にするというアサーションという考え方を学び、これからの良質な対人関係構築に役立つものと感じたのではないかと思います。その後、息抜きにNASAゲームを行い、休憩を取った後、夜は懇親会が開かれました。新人諸君は、その頃にはすっかりうち解け、会の中で予定されていたアトラクション参加では大いにはじけ、あっという間に時間が過ぎていきました。懇親会後は、ホテルの一室を借りてささやかな2次会も開かれ、その場も盛り上がったのは言うまでもありません。2日目は、臨床研究部長の「ゆくかわのながれはたえずしてその2」、続いて院長の「良い医療人を目指して」と題して新人に贈る講演がなされました。皆さん、大先輩の声に耳を傾け熱心に聞き入っていました。最後に、「鹿児島医療センターの職員として、今、自分たちに出来ること」というテーマでグループワークを行い、活発な意見が交わされた後、盛況のなか研修が終了しました。参加した皆さん、この研修で多職種の交流も含め非常に充実した2日間を過ごすことができたのではないかと思います。今般、厳しい医療現場で能動的な人材育成が求められる中、このようなリフレッシュも兼ねた宿泊研修は今後も是非必要であると感じました。

（文責：管理課長 池田 克己）



■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

## 鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

（代）TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・丹後田・田上・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・前田

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

